

渡邊 浩文

認知症介護研究・研修東京センター 研究主幹

認知症者の居宅サービス計画書作成過程への参加支援に関する研究

【目的】居宅サービス計画書の作成のプロセスにおける認知症の利用者の参加状況の実態及び参加促進に向けた支援方法を明らかにする。

【方法】介護支援専門員へのグループインタビューの結果をもとに、調査票を作成し、全国の居宅介護支援事業より無作為に 2000 事業所を抽出し、調査票を郵送した。

【結果】アセスメント・ケアプランへの参加状況については、介護支援専門員より参加の促しがある状況が示唆された。アンケート調査の結果（回収率 21.45%）、認知症者のアセスメントやケアプラン作成の際に困難を感じる 4 つのタイプが抽出され、段取り・工夫との関連をコレスポンデンス分析でみた結果、「あまり困難感じない」タイプより、「やや困難を感じる」タイプの周囲に多くの段取り・工夫がプロットされた。

【考察】段取り・工夫も利用者主体のケアマネジメントの実践に困難さを感じつつも、状況に合わせて柔軟に対応していける介護支援専門員に使われてこそ生きてくる。教育の必要が示唆された。